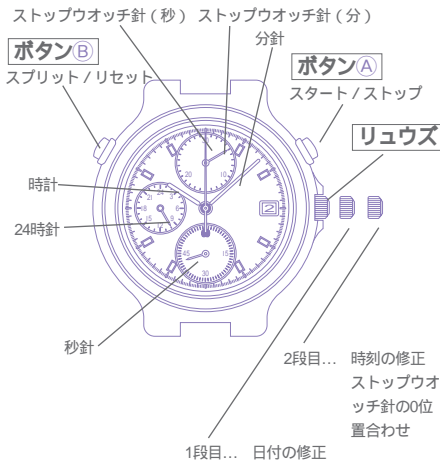


各部の名称とはたらき

セイコーアウトツ7T27の主な特長
 7T27は多軸表示によるストップウォッチ機能をもったアナログ時計です。現在時刻を時針、分針、秒針で表示します。ストップウォッチは1/5秒単位で30分まで計測します。カレンダーつきです。電池の寿命が終りに近づくと、小秒針が2秒間隔で動いて知らせてくれます。

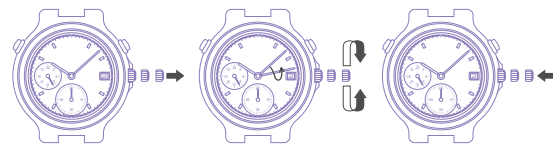


方位表示つき24時針の場合



24時針を太陽の方角に向けてと東西南北が自動的にわかります。

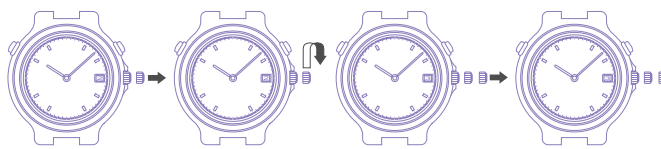
時刻の合わせかた



- リュウズを2段目まで引き出すと小秒針が止まります。小秒針は60の位置に止めてください。
- リュウズをまわして針を合わせます。分針は正しい時刻より4~5分、進めてから逆にもどしてあわせてください。
- 時報と同時に、リュウズを押し込んでください。

24時針は、時針に連動していますので、時刻合わせを行えば、24時針も自動的に修正されます。(24時針の単独修正はできません。)
 午前・午後を確認の上、合わせてください。

日付の修正



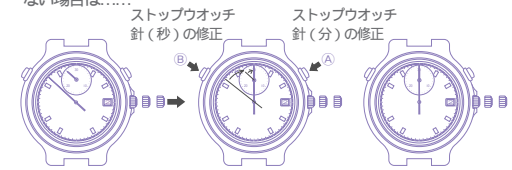
- リュウズを1段引き出します。
- リュウズをまわして前の日の日付にセットします。
- リュウズを2段目まで引き出して今日の日付になるまで針をまわします。
- 修正がすましたらリュウズを押し込んでください。

この時計のリュウズは2段に引けます。

午後9時~午前1時までには日付を合わせないでください。この時間帯に日付を合わせると、翌日になっても日付が変わらないことがありますので、この時間外に針をうごかしてから日付を合わせてください。
 月末の日付修正について
 2月(1ヶ月が28日、うるう年は29日)と小の月(1ヶ月が30日)では、月末または翌月の1日に、日付の修正が必要になりますので日付を合わせてください。

ストップウォッチ針の0位置修正

ストップウォッチ針の0位置がずれて、リセットしても0の位置にもどらない場合は.....



- ストップウォッチをリセットして、リュウズを2段目まで引き出してください。
- 各ボタンA、Bを押して、正規の0位置に合わせてください。
- リュウズを押し込んでください。

ボタンを押し続けると、針は早送りできます。この操作を行う間、時計が停止しますので0位置修正後、時刻合わせをしてください。

「ルミブライト」について

【お買い上げの時計がルミブライトつきの場合】
 「ルミブライト」は、放射能等の有害物質を全く含んでいない、環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)物質です。

ルミブライトは太陽光や照明器具の明りを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約3~5時間)光を放つ夜光です。

なお、蓄えた光を光らせていますので輝度(明るさ)は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。

照度データ(目安値)

- 太陽光「晴天」100,000ルクス【曇天】10,000ルクス
- 屋内(昼間窓際)「晴天」3,000ルクス以上【曇天】1,000~3,000ルクス【雨天】1,000ルクス以下
- 照明(白色蛍光灯40Wの下で)1m]1,000ルクス[3m]500ルクス(通常室内レベル)4m]250ルクス

夜光についてのご注意とお願い

SEIKOウォッチの夜光塗料には、放射性物質と蓄光性物質を組み合わせた自発光塗料を使用しており、その性質上、時間がたつと、輝度は弱まります。

放射性物質の取扱いについては、日本では、「放射線障害防止法」による規制があり、SEIKOウォッチはこの規制の範囲内で作られています。これは、人体に影響がなく、健康上問題ない量とされています。

修理等にあたってはも取扱いには法の規制を受け、メーカーにて実施することになりますので、通常の時計の場合より日数がかかることをご理解くださいますようお願い申し上げます。

また、夜光つきウォッチは値札に「夜光つき」と表記してあります。

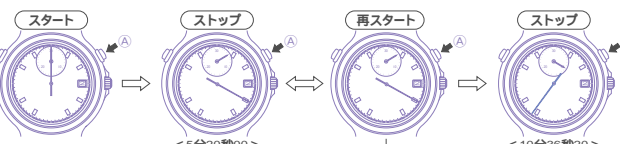
ストップウォッチの使いかた

1/5秒単位で、最大30分まで計測可能です。

使用前に、ボタンBを押して、ストップウォッチ針を0位置にもどしてください。ストップウォッチの計測は、スタート後60時間たつと、自動的に止まります。

普通の使いかた ボタンを押す順序 A A B

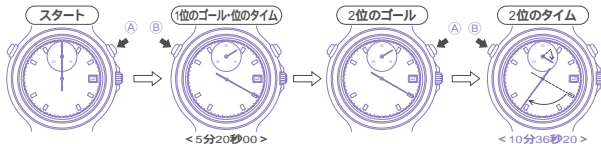
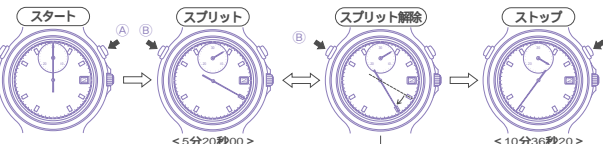
時間計測を積算で行なう場合 ボタンを押す順序 A A A A



計測中にボタンAだけを押すことによって何度でもストップ 再スタートを繰り返せます。

途中経過時間(スプリット)を測るとき ボタンを押す順序 A B B A

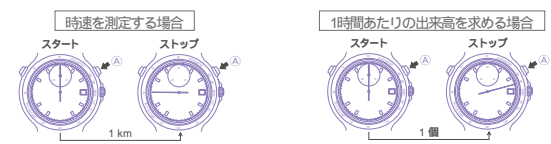
2人のタイムを測るとき ボタンを押す順序 A B A B



何回でもくり返せます。

=タキメーター(TACHYMETER)がついている場合=

単位時間あたりの時速や出来高などが簡単に計測できます。



- 1km走るのに要した時間を計測します。
 - 秒針が指しているタキメーターの数字を読みとります。
- 80km/時
- 製品1個が出来上がるのに要した時間を計測します。
 - 秒針が指しているタキメーターの数字を読みとります。
- 300個/1時間あたり

=テレメーター(Telemeter)がついている場合=

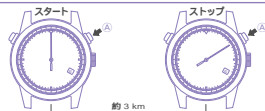
音の発生場所までの、目安の距離を算出する事が出来ます。

テレメーターとは

- 「いなびかり」を見てから、その「雷鳴」が聞こえるまでの時間を測定することで、雷の発生場所からの距離を推測することができます。
- 光(いなびかり)は、ほぼ瞬時に届き、音(雷鳴)は約0.33km/秒の速さで聞こえることを利用して、発生場所からの距離を算出します。
- 1kmを3秒かかるとして、目盛りを用意してあります。

△注意

あくまでも目安の距離を算出するもので、雷からの危険を避けるための行動判断には、使用できません。また、音の速度は伝わる空間の温度によって変わります。



計測方法

- ストップウォッチをリセットしておき、「いなびかり」を見たと同時にストップウォッチをスタートさせます。(ボタンA)
- その雷鳴が聞こえたら、ストップウォッチをストップさせます。(ボタンA) このとき、ストップウォッチの秒針が示す値を読み取ると、距離が読み取れます。

△注意

秒針は1/5秒ステップで運針するため、テレメーターの目盛りとは合いませんのでご注意ください。また、計測は1分以下でのみ有効です。

=デシマル目盛り(Decimal)がついている場合=

目盛りを60進法ではなく、10進法の数値として読み取る事が出来ます。

デシマルとは

- 1分以下の時間を秒では扱わず、10進法数(デシマル: decimal)で扱うことをいいます。
- よって「1分30秒」は、デシマルでは「1.50分」と読みます。
- この数値を知ることで、計算がしやすくなるなどのメリットがあります。

読みかた

- 通常の方法でストップウォッチ計測をしてください。

【例】「5分18秒」を計測した場合
 分はそのまま読み取り、秒を中央のデシマルの目盛りから[0.30(分)]と読み取ります。
 結果: [5.30分]

△注意

秒針は1/5秒ステップで運針するため、デシマルの目盛りとは合いませんのでご注意ください。

